

一橋論叢第四十九卷総目次

論 説

イギリス経済政策思想の展開における一断面……………磯部浩一	一	一	一
——J・A・ホブソンの「帝国主義論」形成過程をめぐって——	一	一	一
イギリス小企業経営者層の社会的背景に関する一考察……………外池正治	一	一	一
イギリス独占形成期における労働市場構造への一視角……………高橋克嘉	一	一	一
清末民初の中国人の西学・西洋文明に対する態度……………熊野正平	一	一	一
近代科学の受容と日本の伝統的なもの……………杉田元宜	一	一	一
日本における人口、産業構造の近代化……………美濃口時次郎	一	一	一
『花柳春話』その他……………海老池俊治	一	一	一
明治十年代における賃労働の存在形態と性格……………古島敏雄	一	一	一
日本の近代化と文化受容……………大林太良	一	一	一
法学博士町田實秀先生……………吉永榮助	一	一	一
——その人と学問——	一	一	一

カール大王のザクセン戦役について……………	増田四郎	二	三〇九
Quæstiones Perpetuae の史的素描……………	矢田一男	三	三二
——主として共和政期——			
ドイツ語の正書法改革問題について……………	橋本郁雄	三	三六八
十二・三世紀中東ドイツにおけるブルクグラフ制について……………	山田欣吾	三	三五五
フランソワ・ジュニイ (François Génry) の抵抗権論……………	杉原泰雄	三	三六九
十九世紀末に至る普通法論的 Reception 論……………	勝田有恒	三	四〇四
呂晩村……………	西順藏	四	四五一
トーマス・ロバート・マルサス……………	高橋泰藏	四	四六八
美濃部達吉先生の憲法学……………	田上穰治	四	四八二
ジュイムズ・ジョイス……………	海老池俊治	四	四九七
杉村廣藏論……………	馬場啓之助	四	五四四
アーネスト・ヘミングウェイ……………	齋藤忠利	四	五四〇
——人と作品——			
経営学者としてのドラッカー……………	藻利重隆	四	五五九
自己相関と回帰係数の推定……………	地主重美	五	五八一
小売商と競争……………	田内幸一	五	六〇一
十八世紀マラータ王国の国家とカースト (Caste)……………	深澤宏	五	六〇九
変形分析……………	長谷川欣佑	五	六四三

——言語研究の最近の成果——

経済の成長と中小企業.....	美濃口時次郎	六	一	六二
工業発展の地域構造 (I).....	篠原三代平	六	六	六六
エドワーズの主観価値減価却論.....	倉地幹三	六	六	七六
企業社会政策と企業維持.....	田島壯幸	六	六	七〇
——バウムガルトナーの所論を中心として——				

研究ノート

ロックの思想形成と自然研究.....	中村恒矩	一	六	六
——『医学について』を中心に——				
伝記家ジョン・オーブリとその方法.....	石井正之助	二	二〇	二五
——イギリス伝記文学近代化の一起点——				
モレリ『自然の法典』について.....	宇津木正	二	二七	三三
明治前期大審院判決録編纂覚え書き.....	沼正也	三	三三	四〇
線型分数計画について.....	山田欣一	五	六	六三
『国富論』第五篇における国家財政把握について.....	和田重司	五	六	六九
Carl Menger の主著 Grundsätze der Volkswirtschaftslehre の最初の草案について.....	山田雄三	六	六	七五
デイドロにおける『アンシクロペディ』.....	竹村孝雄	六	六	七三

——その思想形成における意義についての覚書——

書 評

Lajos Takács, Introduction to the Theory of Queues, 1962...磯野修	『ドゥーデン、ドイツ語と外来語の正書法』第十五版(マン・イム).....橋本郁雄	タン・シン著『市場理論』.....橋本仁藏	ジョセフ・グロディン著『労働組合の内部問題と法——英米判例研究』.....竹内規浩	ア・エル・ルリア著『正常行動と異常行動の調節におけることばの役割』.....中村恵一	ロベール・ドゥテラ著『J・J・ルソーの合理主義』.....望月通	ジョルジュ・デュヴオー著『ユトーピアの社会学』.....藤本治	宮田桂一著『空法概論』.....坂本昭雄	D・キーンアプフェル著『体罰と社会的相当制』.....庭山英雄	グローチウス詣で.....大平善梧	学界消息
一	一	一	一	一	二	二	六	六	三	
六	六	六	二〇	二〇	二二	二三	二九	三三	一四	
六	六	六	二〇	二〇	二九	二七	二九	三三	四六	

年譜・著作目録

名誉教授町田實秀年譜抄

三

四八

四三

名誉教授町田實秀著作目録

三

五三

四六

彙報

博士論文要旨及び審査要旨(森田哲弥・南亮進)

一

二三

二三

博士論文要旨及び審査要旨(中川和彦)

二

四〇

二六